

答

現在、本市においては、生活困窮世帯の子どもの学習に関する相談は受けていないが、非常に重要な課題であると認識している。

平成27年4月から生活困窮者自立相談支援事業が開始されたが、任意事業の一つである生活困窮世帯の子どもに対する学習支援は、現在のところ取り組んでいない。

しかしながら、貧困の連鎖を断ち切るために学習支援事業は必要であり、平成29年度からの事業実施を検討している。

また、平成28年度から愛媛県の新規事業として、中学生を対象に学習意識と学力の向上を図るため、ボランティアによる学習支援や進学相談などを行うひとり親家庭学習支援ボランティア派遣事業が実施されるため、市としても広報など、できる限りの協力をしていきたい。

今後は、ひとり親家庭への支援と生活困窮世帯への支援を連携することにより、相乗効果が生まれるよう対象世帯の要望を更に把握し、より実効的な支援を検討したい。

青風会

一般質問

早急な改築が必要ではないか？

氷見公民館

問

公民館は、地域の防災拠点として重要な施設であるが、氷見公民館は旧耐震基準の建物である上に、氷見分団蔵置所が併設されているため敷地が狭く、整備が望まれている。氷見公民館の改築と、氷見分団蔵置所の移転は、どのような進捗状況にあるのか。

答

氷見公民館は、昭和49年3月の建築で老朽化が進み、耐震強度も不足している状況にあるため、改築する予定としている。

平成29年度に実施計画と仮設公民館の整備、平成30年度に建築工事を行い、遅くとも平成31年度中には新公民館へ移転できるよう計画している。



氷見公民館と氷見分団蔵置所

しかし、現在の公民館は、氷見分団蔵置所を併設しているため、出入り口に消防車両が出動するための駐車禁止区域を設けており、各種公民館行事において来場者の駐車場や行事用スペースが制限されるなど、敷地全体が利用できない状況となっている。

このようなことから、今回の氷見公民館の改築では、氷見分団蔵置所の併設を継続することは敷地などの制約から困難であると判断し、蔵置所の移転を進めることとしている。

地域創生センターの活用状況は？

活用状況は？

問

地域創生センターは、地域創生の実現に向けた中核機能として有効に活用し、利用度を高めていく必要があると考えるが、愛媛大学との連携により、どのような活用が進められているのか。

答

地域創生センターは、開所以来、愛媛大学を中心に企業や行政の課題解決に資する共同研究や高大連携教育の実施に向けた協議が積極的に行われており、農業や工業などの分野を問わず地域経済全体に対し、さまざまな効果が期待できるものと考えている。

また、愛媛大学からは、当該拠点を専任教員の配置や予算措置が可能となるセンターに昇格させる意向が示されており、今後は、愛媛大学地域協働センター西条として、更なる機能強化が図られるものと期待している。

会派に属さない議員

一般質問

野党統一候補実現の考えを問う！

問

7月10日投票の2016年参議院議員選挙において、選挙史上初の1人区32選挙区での野党統一候補実現の背景は、安保法制廃止・立憲主義回復とともに、アベノミクスによる国民生活破壊を許さない国民の声があると思うが、市長はどのように考えるのか。

答

野党統一候補の実現については、報道などを通して、一定は承知している。今回の件は、国政の課題や方向性についての議論の中から関係政党において政治判断されたものと受け止めている。いろいろな争点があると思うが、国政における各政党の政治判断について、所見を述べたい。